

衆議院解散についての会頭コメント

内閣支持率の低迷や地方選挙での与党候補の相次ぐ敗退など、逆風の中での解散は、追い込まれた中での決断（追い込まれ解散）という印象が否めない。

今回の総選挙は、これからの日本の舵取りを担う政権政党を選択する大事な選挙であると認識している。我々国民はこれまで以上に厳しい視線で、各党のマニフェストとその政策実現力を見極めなければならない。社会保障制度・税財政改革の姿や景気回復・経済成長戦略など、国民の安心、安全と経済の持続的な成長を実現できる日本の将来ビジョンを描き、それに基づいた短期・中期の政策について具体化させるシナリオをわかりやすく提示した政党が、国民の支持を得ることとなるだろう。

経済危機からの景気回復過程にある現在、景気の再失速を回避するためにも、「政治の安定」と「経済政策の継続性」が最も重要であり、政権を目指す各党には、政権獲得後の速やかな体制整備プログラムを明示するとともに、有効な経済政策の即時実行をお願いしたい。

総選挙まで1ヶ月以上もの政治空白が生じることになるが、政局議論に終始せず、この期間が無駄にならないよう、真に国民の審判を仰ぐための政策論争が真剣に交わされることを期待したい。

平成21年7月21日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄